

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第 2 学年

【単元名】 いきもの大すき（14 時間扱い）

【育成を目指す資質・能力】

〔知識及び技能の基礎〕	〔思考力,判断力,表現力等の基礎〕	〔学びに向かう力,人間性等〕
モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気付く。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に着目したり、関わり方を見直したりしながら世話をすることができる。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとする。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「メダカを飼おう」自分のメダカをペットボトルで飼う活動。
 ・どのようにしてメダカを飼うのか、育て方やえさについて、様々な方法で情報を集めた。

生かす見方・考え方：モルモットの飼育について、自分の思いや願いを実現しようとする事。

過程	学習活動（時間）	留意点
思いや願いをもつ ↓ 活動や体験をする ↓ 感じる考える ↓ 表現する行為する	1 これから飼育するモルモットについて話し合う（1）	<p style="text-align: center;">飼育への願いや見通しをもつ場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞モルモットとの出会いの場면을工夫し、仲良くなりたいたいというワクワク感をもてるようにしましょう。 ☞気付いたことを短冊カードなどに記入したり、掲示したりして、気づきが共有できるようにしましょう。
	2 モルモットと関わる上で、気を付けることを知る（1）	
	活動への願い：かわいいモルモットと仲良しになりたいな。	
	3 世話の仕方を調べる（2）	<p style="text-align: center;">モルモットの飼育をする場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞手順通りに世話をするところから、モルモットの立場に立って世話をするところまで思いが至るように、飼育活動を継続的に行いましょう。 ☞自分の世話とモルモットの変化や成長を関連付けて世話できるよう、日誌をつけたり、語り合ったりする時間を設定しましょう。
	4 モルモットの様子に合わせて、世話の仕方を工夫する（7）	
	5 飼育して気付いたことや感じたことを絵や文で表現する（1）	<p style="text-align: center;">対象への気づきを表現する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞低学年の子どもは、自らの学びを直接的に振り返ることが難しいので、相手意識や目的意識に支えられた表現活動で自らの学習活動を振り返ることが大切です。表現したくなる活動を取り入れましょう。
6 これまでのモルモットの飼育活動を振り返る（2）		

次単元へのつながり：「モルモットとの思い出ブックを作ろう」

・モルモットとの思い出を絵本にして表し、モルモットと自分との関わりの様子に気付く。